

ラ ウ ン ド テ ー ブ ル

流 れ 出 る ア ー ト

場 所 と ア ー ト に

つ い て の 4 人 の

発 言 、 そ の 先 へ 。

#### レクチャー&対話プログラム【ラボカフェ】

ラウンドテーブル「流れ出るアート」

場所とアートについての4人の発言、その先へ。

#### 日時

2010年7月24日(土) 15:00~18:00

#### 会場

アートエリア B1 (京阪なにわ橋駅)

#### 参加

無料、事前申し込み不要、当日50名先着順、入退場自由

#### ゲスト

芹沢高志 (P3 art and environment エグゼクティブ・ディレクター)

黒田雷児 (福岡アジア美術館学芸課長)

山田創平 (都市社会学/京都精華大学専任講師)

雨森 信 (インディペンデント・キュレーター)

#### ナビゲーター

吉澤弥生 (芸術社会学/大阪大学 GCOE 特任研究員)

カフェマスター：金水敏 (大阪大学 CSCD センター長)

久保田美生 (大阪大学 GCOE 特任助教)

現在、ビエンナーレやトリエンナーレなどの大型国際展が各地で開催される一方で、地域に根ざしたいろいろな「アートプロジェクト」が立ち上がっています。それらは、個々の表現活動から芸術振興、まちの活性化といった文脈をもつもので、じつにさまざまです。

ここでアートは、人々の「生」とどのように関わっているのでしょうか？それを考えるには「場所」という要素が不可欠です。場所について考えるということは、そこに閉じこもるということではなく、それを決定する境界を探し、疑い、無化していく過程にほかなりません。実際に各地では、場所と人と関わり、境界、場所、個人を超えてつねに変化し続ける一まさに「流れ出るアート」が現れてきています。

本シンポジウムでは、東京、十勝、別府など各地でプロジェクトを展開し、場所に根ざしたダイナミックなアートをいくつも生み出してきた芹沢高志さん、福岡でさまざまな展示を手がけ、同時代のアジア美術と1960年代日本美術に造詣の深い黒田雷児さん、空間のオルタナティブな読解を通して地域での表現の可能性を切り拓こうと試みる山田創平さん、大阪の新世界・西成で芸術と社会の生きた関係を再構成すべくプロジェクトを続ける雨森信さんの4名をお招きし、それぞれのお話を通して、「場所とアート」のこれからについて語り合います。

## スケジュール

### 第一部 レクチャー

- 15:00 - 15:10 はじめに 吉澤弥生
- 15:10 - 15:30 別府・大阪・舞鶴・バリ・台湾ー海流がつなぐ場所 山田創平
- 15:30 - 15:50 アジアのアート・プロジェクト再考 黒田雷児
- 15:50 - 16:10 新たな領域を開拓するアーティストの実践 雨森信
- 16:10 - 16:30 場所とアートの魔術性 芹沢高志
- 16:30 - 16:40 休憩

### 第二部 対話

- 16:40 - 18:00 ゲストと参加者による対話

### ゲストプロフィール

芹沢高志 Serizawa Takashi

P3 art and environment エグゼクティブ・ディレクター  
東京・四谷の禅寺、東長寺の新伽藍建設計画に参加したことをきっかけに、89年にP3 art and environment を開設。その後も帯広競馬場で開かれたとかち国際現代アート展「デメーテル」の総合ディレクター（2002年）をはじめ、数々のアート、環境関係プロジェクトを展開する。09年から大分県別府市で開催された現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」の総合ディレクター。著書、訳書多数。

黒田雷児 Kuroda Raiji

福岡アジア美術館学芸課長  
1985年より福岡市美術館に勤務、2003年より現職。専門は戦後日本の前衛美術。韓国やインドを中心にアジア美術の調査もすすめる。「九州派展一反芸術プロジェクト」（1988年／福岡市美術館）をはじめ、アジア美術展、福岡アジア美術トリエンナーレなどを共同企画。1990～98年、「ミュージアム・シティ・プロジェクト」の企画に加わる。1995年、日本文化芸術財団より日本文化芸術奨励賞受賞。

山田創平 Yamada Sohei

京都精華大学人文学部専任講師  
名古屋大学大学院修了。文学博士。（特）関西エイズ対策協議会理事。2008年に名古屋大学名誉修了者賞受賞。専門は都市社会学。2004年からエイズ予防プロジェクト＜MASH大阪＞の運営に携わり現在副代表。また大阪新世界や京都府舞鶴市、大分県別府市などでアートプロジェクトに関わり、地域の系譜を詳細に探る中で見えてくる空間のオルタナティブな側面を、地域での新たな表現の可能性として切り拓くべく活動を展開。

雨森信 Amenomori Nobu

インディペンデント・キュレーター

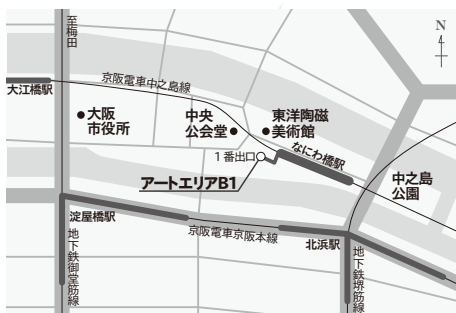
2002年NPO法人記録と表現とメディアのための組織 [remo] を立ち上げ、企画、運営に携わる。2003年より大阪市の文化事業として、新世界、西成周辺のまちなかにて「Breaker Project」をスタート。2009年「水都大阪 2009」にて藤浩志のプロジェクト「かえるシステム」のディレクター、「BEPPEU PROJECT 2010、アート・ダンス・建築・まち」の、アート部門ディレクターを務める。

吉澤弥生 Yoshizawa Yayoi

大阪大学 GCOE 特任研究員

大阪大学大学院修了。人間科学博士。専門は芸術社会学。労働、政策、運動、地域の視座から現代芸術を研究。近著に「文化概念の形成-R.ウィリアムズ『文化と社会』（『文化の社会学』世界思想社、2009）、「妄想のパブリックアート@御堂筋」、レポート「ソーシャルメディアー社会をひらくメディア／媒介する社会」（ともに『VOL 04』以文社、2010）他。

### アクセス



京阪電鉄中之島線「なにわ橋駅」地下1階コンコース  
(地下鉄「淀屋橋駅」「北浜駅」から徒歩約5分)

### ラボカフェに関するお問い合わせ

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター (CSCD)  
TEL: 06-6850-6632

### アートエリア B1 についてのお問い合わせ

アートエリア B1  
TEL: 06-6226-4006(12:00～19:00)

\*月曜(祝日の場合は翌日)休館

※車いすでお越しの場合は、あらかじめアートエリア B1 までご連絡いただきますようお願いいたします。

主催：アートエリア B1【大阪大学+NPO 法人ダンスボックス+京阪電気鉄道(株)】

共催：大阪大学 21 世紀懐徳堂、大阪大学グローバル COE プログラム「コンフリクトの人文学」

企画制作：大阪大学コミュニケーションデザイン・センター(CSCD) / NPO 法人ダンスボックス

制作協力：NPO 法人 recip [ 地域文化に関する情報とプロジェクト ]

助成：サントリー文化財団「人文科学、社会科学に関する研究助成」(「芸術と地域社会ー日本とアジアの比較研究」)